

長野市 第220号

教育センター便り

令和7年3月10日

長野市教育センター
長野市大字鶴賀550番地2
TEL 026-226-7486
FAX 026-264-7570
責任者 今井 睦俊



あめは ひとりじゃ うたえない
きつと だれかと いっしょだよ
いすど いっしょに いすのうた
かべど いっしょに かべのうた
ドアど いっしょに ドアのうた
まどど いっしょに まどのうた
あめは だれとも なかよしで
どんな うたでも してるよ
いすど とんとん いすのうた
かべど ばちばち かべのうた
ドアど かちかちや ドアのうた
まどど かんかん まどのうた

あきとの雨のうた

鬼無里小学校 二年

道林 秋斗

「明日はきっとおもしろい」

教育長 丸山 陽一



「明日はきっとおもしろい」

この言葉は、令和6年度、第91回NHK全国学校音楽コンクールの小学校課題曲「かわただけだよ へんじゃない」の歌詞の一部です。

人口減少や少子高齢化、社会全体のデジタル化が加速する中、自然災害の激甚化等、未曾有の出来事が次々に起こり、予測困難な時代となった現在、これまで以上に、未来を切り拓く力が求められております。

また、価値観が多様化し、課題に対する正解が一つとは限らない社会では、様々な出来事や情報を複眼的に把握し、柔軟に思考することも重要であると考えております。

このような現状を踏まえ、本市では、「自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力（＝自学自習の資質能力）」を一層伸張させるため、本年度より「しなのきプランII」において、非認知能力の育成を意識した教育活動の工夫や授業改善、子どもに寄り添い、子ども一人一人に適した環境づくりを推進しているところです。

そこで、「非認知能力」を育成するための一つの手段として、「アントレプレナーシップ（起業家精神）」の醸成について考えてみるのはいかがでしょうか。「アントレプレナーシップ（起業家精神）」とは、

様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず、自らの枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していくことです。探究的な学びを通じて、単に、起業家を育てるということではなく、その根底にあるマインドを育成することで、失敗を恐れず、チャレンジすることや、失敗から学び、粘り強く追究することを学びます。自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探究したりすることは、「しなのきプランII」で育成を目指す資質・能力でもあります。また、その過程においては、協力やコミュニケーション力、創造性、粘り強さ、困難に立ち向かう力等、非認知能力を高めることにもつながると考えられております。

持続可能な社会の創り手となり、次代を担う子どもたちには、「非認知能力」や「アントレプレナーシップ（起業家精神）」等が生まれ、変わりゆく環境に適応しつつ、人と人とのつながりの中で、共感を創り出し、自分の好きなことを夢中になって追求して欲しいと願っております。

「昨日と今日は ちょつとちがう」
「去年と今年は ぜんぜんちがう」
「昨日とちがう 明日は きっとおもしろい」
～「かわただけだよ へんじゃない」より～

市教育委員会では、引き続き、子どもと先生が「明日はきっとおもしろい」と実感し、ワクワクする学校づくりを共に考え、学校のチャレンジを後押ししてまいります。「自ら学び 共に育つ～ウェルビーイングの実現～」に向けて、未来を切り拓く更なる一歩を共に踏み出してみませんか。

初任者研修「冬期研修」 ～1年次を振り返り、2年目へ～

1年次最終回となった「冬期研修」では、まず近藤守教育長職務代理者から、4月のスタート研修、7月の夏期研修に続いて、ご講話いただきました。



近藤教育長職務代理者の講話

◇受講者の感想から

- ・教師の言葉がけ1つで生徒との関係が変わる。子どもとどれだけ触れ合ったか。生徒の姿から自らを振り返ることができる。自分自身をどう見るか、弱いところを認め、それをどう向き合っていくかを忘れずにいたいと思います。

次に、分散会では1年間を振り返り、めざす子どもの姿・自己課題について、自身の思いや学び、今後の課題や決意等を意見交換しました。

◇受講者の感想から

- ・それぞれ1年間の学びや悩みがあって、それを共有したり、解決のヒントをもらえる初任研の場はとてありがたいと思った。学年が違えば発達段階ももちろん違って、まさに「その子」に合った関わりや支援をしていくことが大切だと学んだ。
- ・小学2年生で子どもたちに任せて活動した実践を聞き、子どもにゆだねてみる大切さ、その経験を積み重ねているとより成長しているんなことができるすごさを感じました。無理だと決めつけずやらせてみることを、これからの生活の中で取り入れていきたいと思っています。

最後に、「初任研1年終了にあたって」と題して、佐藤主任指導主事の講話を受けました。

◇受講者の感想から

- ・学校生活の中で見つけた子どもの良さ・成長を子どもや保護者と分かち合えること、実感できることが教員という仕事の良さであることを感じた。授業だけでなく、給食・掃除・生活ノートの記述などのささいなところから生徒の良さ・成長を見付けられる感性を磨きたい。
- ・良いところだけでなく、もっと良くなるために改善した方がよいことを一緒に考えることが信頼される人につながると感じた。子どもの姿を見て、様々な場面での行動を認めることを大切にしたい。

本研修で、1年次校外研修16日間で修了となりました。回を重ねるごとに仲間と和やかに語り合う姿も見られ、充実した初任者研修を実施することができました。今後も主体的に学び、教師としての力を更に高めていくことを、祈念いたします。

(小林 由起子)

キャリアアップ研修I「まとめ」 ～学び続ける教師を目指して～

キャリアアップ研修I「まとめ」が、1月16日に開催されました。初めに、教育センター佐藤文博主任指導主事から「学び続ける教師を目指して」という演題で講話をいただきました。

◇受講者の感想から

- ・キャリアステージに応じて求められる資質・能力があることを教えていただきました。変化が目まぐるしい社会の中で、私自身が学び続け、分からないことは進んで聞き、自分を日々アップデートしていきたいです。
- ・佐藤先生のお話をお聞きし、生徒の声を大切に聞き、自分を客観的に見ることで、新たな視点を持つことができると分かりました。私も生徒から学び、生徒とともに視野を広げていきたいです。

次に、設定した自己課題について、本年度行った授業公開や選択研修からの学びを発表し合う演習「私の授業づくり」を行いました。

◇受講者の感想から

- ・各学校の先生方がそれぞれの環境の中で、自己課題の解決に向けて、研究、学んでいく姿にとて刺激を受けました。私も実践してみたいものが見つかりました。
- ・校種や立場の違う先生方のお話を聞いて、この研修に参加しなければ出会えなかった学びがあると感じました。知っただけで留めず、真似したり、実践したりしていきたいです。

最後に、これまでの経験を振り返り、グループで意見交換をし、5年後の自分を考える演習を行いました。

◇受講者の感想から

- ・今までの教員人生を振り返り、他の先生の経験を聞くことができ有意義な時間になった。それと同時に私の足りない部分も見つけた。この研修が終わっても引き続き学び、教員として必要な力を身に付けていきたいです。
- ・これまでの自分の学びを書き出したことで、自分の成長を実感することができた。また、うまくいかないことや大変なこともあったけど乗り越えてこられたことに自信を持つこともできた。これまで周りの先生に支えられてきたので、5年後は自分が周りを支えられる教師になりたい。

自己課題の解決に向けて、熱心に研修に臨む先生方の姿から私もたくさんのことを学ばせていただきました。キャリアアップ研修Iを終えた受講者の先生方は、今後学校の中核となってさらにご活躍されることと思います。これからもお互いに学ぶことを大切にしていきたいです。(末松 辰規)



キャリアアップ研修Ⅱ「まとめ」 ～これまでの経験から未来の私を考える～

1月23日にキャリアアップ研修Ⅱ「まとめ」が行われました。初めに、自己課題を基に、本年度取り組んだ授業公開と授業参観について意見交換する演習「私の授業づくり」を行いました。

◇受講者の感想から

- ・「自分の目指す授業」について改めて考えることができた。今後も教材研究を怠らず、自身の授業力を高めていきたい。
- ・同じグループの先生に質問しながら、一緒に考えたことで、自分だったらどうするかを考え、視点を広げることができました。今回のような会話を日頃、職員室でもしたい。チームで考えること、働くことのよさを改めて感じました。

次に、演習「未来の私へ」を行いました。これまでの研修や経験を振り返り、これからの教員人生を主体的に考える先生方の姿がとても印象的でした。



◇受講者の感想から

- ・「今までの自分」と「これからの自分」の視点で対話し、考えたことで、これからの自分が何を大切にすればよいか少し見えてきた。
- ・自分の仕事の向き合い方にも気付きがあり、他の先生が大切にしていることも興味深かったです。中堅になって、昔と比べ、悩みや力を入れていることが変わってきた気がします。芯になる部分は大切にしながら、自分に求められていることにも応えられる教員になりたいと思いました。

最後に、近藤教育長職務代理者による講話「学び続ける教師」をお聞きしました。

◇受講者の感想から

- ・近藤先生のこれまでの子ども達との歩みを聞かせていただき、たくさんの発見がありました。共感できました。今やっていることの価値や疑問を改めて考えさせられました。そして、心が温かくなりました。忘れられない講演となりました。ありがとうございました。
- ・近藤先生のお話をお聞きして、時代の変化に対応しなければならない中で、教師不足の中で、私たちが大切にしなければならないことは、子ども達が毎日楽しく学校に来れる環境をつくることだと感じました。子ども達が同じことをできるようにするのではなく、一人ひとりが伸び伸びと学べるように、これからも私たちが学んでいきたいです。

演習の様子や受講後の感想から、参加した先生方が日頃から自己課題を持ち、子どもたちの思いに寄り添い、熱心に指導・支援をされていることを感じました。キャリアアップ研修Ⅱを一つの節目とし、今後も、学校の中核となるミドルリーダーとして、ご活躍されることを祈念しております。（末松 辰規）

出前研修 全教職員の研修、 少人数のチーム研修 何でもOK!

今年度は、2校、3回の訪問で、延べ39名の皆さんに受講していただきました。開催日、研修時間及び内容は、それぞれの学校の願いやご要望に寄り添って決定し、実施しました。

☆北部中学校出前研修から（訪問日8/21）

＜グーグルスプレッドシートやクラスルーム活用など、3つのコースに分かれての基礎研修＞

- ・研修会には31人の教職員が参加し、はじめにスプレッドシートを扱った後、オンデマンドで、A：入門コース（クラスルームを作るのが初めての方）、B：基礎コース（クラスルームは作ったことはある。必要なところを優先して学習したい方）、C：その他コース（クラスルームは必要ない。スプレッドシートの便利設定や、その他の便利機能を選んで学びたい方）の3コースに分かれて研修。（研修時間90分）

【感想より】

- ＜Aコース＞・自分のペースで学ぶことができたのがよかった。とても苦手なので、本当に基本的なところ、今日の入門コースのような研修をもっとできるとありがたいと思いました。
- ＜Bコース＞・共同編集のイメージを少しつかむことができました。オンデマンドで画像を戻りながら何回も見て確認できたことで、作業が理解しやすかったです。
- ＜Cコース＞・クラスルームの基礎からスプレッドシートの応用的な活用まで幅広く学ぶことができました。先生方の課題がそれぞれのなか、こういった研修を行うことの難しさは、日常の授業に通じるものがある。個別最適化のためのコース別（オンデマンド）の設定など、参考になる部分がありました。

☆浅川小学校出前研修から（訪問日①6/10、②10/28）

＜校内の課題別研修チームが、自主課題の解決のために継続して実施したICT活用研修＞

- ・第1回目はMicrosoft White Board、第2回目はオクリンクプラスの活用研修を行い4名×2回、延べ8名が参加しました。

【感想より】

- ・短い時間で端的に教えて頂きありがとうございました。
- ・限られた時間の中でしたが、内容の濃い大変有意義な研修でした。心より感謝申し上げます。
- ・オクリンクプラスを算数の授業に活かすことができた。これからも効果的な学習場面を探していきたい。
- ・オクリンク使いこなしていきたいと願っています。

来年度も出前研修の受講をお待ちしております。（中澤 康匡）

令和6年度 研修講座の成果と課題

○ **研修講座への参加者数**

- (1) 指定研修：のべ2,869名
- (2) 自らの力量向上を目指す研修：のべ1,197名

○ **講座に対するアンケート結果**

(初任研、キャリアUP I (5年研)、キャリアUP II (中堅研)を除く2,528名)

【アンケートの項目】

- 1：本研修会は、あなたにとって良いものでしたか。
- 2：演習・テキスト・資料等の内容は、今後の役に立つものでしたか。
- 3：研修講座で学んだことを自校の教育活動に生かしたいですか。

項目	A (かなりそう思う)	B (そう思う)	C (そう思わない)	D (全くそう思わない)
1	62.2%	36.9%	0.9%	0.1%
2	59.3%	39.2%	1.5%	0.0%
3	62.4%	36.8%	0.8%	0.0%

○ **講座目標に対するアンケート結果**

目標を達成できたか	A (かなりできたと思う)	B (できたと思う)	C (できたと思わない)	D (全くできたと思わない)
全項目をまとめて	40.6%	56.4%	2.6%	0.3%

○ **「私の研修」^{※1}に対するアンケート結果**

※1 「私の研修」は、研修計画の立案や研修履歴の記録ができる記入簿です。

項目	A (使っている)	B (不完全だが使っている)	C (使っていない)	A + B
「私の研修」を使っているか	23.3%	41.4%	35.3%	64.7%

○ **今年度の研修講座を振り返って**

＜全体を通して＞

上記の表に見られるように、講座に対しては98%を超える受講者の皆さんが、目標に対しては97%を超える皆さんが肯定的に評価していただきました。

今年度は、120講座（GIGA関係の3回の出前研修を含む）を実施し、受講者の延べ人数は、上記にありますように指定研修2,869名、一般研修1,197名、合計4,066名という多くの皆さんに受講いただきました。

基本方針に基づいて研修講座を構築してきたわけ

ですが、最新の教育政策や学習指導要領等における課題に対応して講座内容を改変したり、国立教育政策研究所の調査官、大学教授、有識者等多くの講師を招聘したりし、少なからず受講者の皆さんの意識改革に寄与することができたのではないかと考えています。

いずれにしましても、熱心に受講していただき、充実した講座にさせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

＜「私の研修」について＞

教職員の研修計画や研修履歴の記録等を支援する「私の研修」（記録簿）は、公簿でもなく提出する必要もない支援資料ですが、64.7%の先生が使っており、新しい研修制度になってから利用度は上がっています。

新しい研修制度による研修計画や研修履歴の記録は、県の個人記録簿に記入したり、今後は国のシステム「Plant」に記録されていくようになりますが、そのための使いやすい資料として、また補助簿としての利用メリットが見えてきているのかもしれない。

＜「しなのきプランII」について＞

今年度は、「しなのきプランII」の初年度であり、その理念と方向性を踏まえ、センターの研修も連携して構築してきました。具体的には、各講座の「しなのきプランII」の4つの重点プロジェクトとの関連を明確にして、先生方が「しなのきプランII」を意識しながら、自らの力量向上に取り組めるように進めてきました。また、特に関係が深い講座については重点講座に設定して、優先的に受講してもらえるようにするとともに、理念や方向性の理解を広げるために、管理職やミドルリーダー等の指定研修の中にしなのきプランIIの内容を盛り込み、一定の成果があがっています。

○ **来年度に向けて**

本年度の方向を踏襲しつつ、「しなのきプランII」の2年次にあたり、「しなのきFinderの活用と具体的な子どもへの支援」や「研究指定校の実践や先進的実践の理解と共有」等を大事に取り上げ、プラン推進に関わっていかれればと思います。

また、国の教職員研修システム（Plant）への完全参入（R8年度）に向けて、準備を進めていきます。

Plantへの参入をきっかけに、先生方の研修観が、今まで以上に、主体的に自身の力量を向上していく方向につながっていくことを期待しています。

（佐藤 文博）

理科教育センター

本年度、理科教育センターでは、下記の学習及び教職員研修・支援を行いました。

1 小学校6年生の理科学習

長野市全小学校の6年生が、一日当センターで学習します。1時限80分、午前2時限、午後1時限の計3時限授業です。各学校が希望した実験授業2つを行いました。（番号9プログラムは新規開講）

天文学習は必修とし、プラネタリウムの座席の間隔を十分に取って行いました。

また、学級担任が学習指導案をもとに補助授業者学習指導計画を立てることで、理科指導の力量を高めていただく機会となるようにしています。

<授業の学校・学級別の選択状況>

番号	学習内容	実施状況		
		学校	学級	
			数	%
1	生き物と食べ物	19	43	19.9
2	だ液のはたらき	2	4	1.8
3	てこのはたらき	1	3	1.4
4	電気の利用	17	31	14.4
5	ものを燃やすはたらきをする気体	1	2	1.0
6	ものが燃えた後の気体	4	8	3.7
7	水よう液の性質	6	9	4.1
8	地層と岩石	41	86	39.8
9	プログラミング（電気の利用）	15	30	13.9
	天文	53	216	100

各校がどのような視点から学習内容を選択したのか、学習後の意見や感想も含めてアンケートに記入していただいております、来年度に生かしていきたいと考えています。

《先生方の感想》

- 実験を一人ひとりが行うこと、この体験の大切さを感じました。日頃の授業でも、教材準備、子どもの思考を予想することなど、準備が大切だと改めて思いました。
- プログラミングの授業を体験できるようお願いしていたので、実現してくださり感謝しております。
- 天体観察は天気によって左右されたり、ご家庭の都合で行うことができない子がいることが現状なので、プラネタリウムはありがたかったです。

2 4年生の天文学習

希望した19校の4年生が、天文学習を3学期を中心に行いました（一部6年生と同日実施）。「月

や星」事象に直接関わるのが難しいです。当センターのプラネタリウム学習を活用してください。

《先生方の感想》

- 授業後に「今夜、星見えるかな」「星がたくさん見える場所に行きたいな」等、児童の声がたくさんきかれました。ありがとうございました。

3 教育支援センターの理科学習

春と秋に、教育支援センターの小中学生が、当センターで学習しました。延べ37名が参加しました。

4 教職員研修講座

教育センター研修講座「児童の興味や疑問を生かす理科授業づくり」として5月14日小学校中学年、5月16日小学校高学年に分けて行いました。実験装置・器具の使い方、教材の製作、観察・実験場面での支援の方法等について研修を行いました。

《参加者の感想》

- 自分にとって、初めての面白い内容でした。今日のワクワク感を子どもたちに伝えられるような授業をしていきたいです。
- 普段できない専門的な体験をさせていただき、自分自身が驚いたり、感心したりしました。授業をしていく以上、自分の知識をこうやって増やしていくことが大切だと改めて感じました。

5 理科教育に関する教職員への支援

下記(1)~(4)のような支援を行いました。来年度以降も、学習支援や理科室管理等、理科に関することでしたらどんなことでもお手伝いします。

(1) 教材の提供〈校数〉

ホウセンカ種子〈42〉オシロイバナ種子〈18〉オオカナダモ〈5〉ホテイアオイ〈38〉メダカ〈24〉ミドリムシ〈39〉ゾウリムシ〈39〉3年種子セット〈32〉ホウセンカ株〈2〉インパチェンス株〈1〉火山灰〈27〉ミョウバンの結晶〈27〉カブトムシ幼虫・成虫〈20〉

(2) 実験観察器具の貸出〈件数〉

注射器〈1〉浣腸器〈1〉解剖はさみ〈2〉柄付き針〈1〉解剖皿〈1〉ピンセット〈2〉ルーペ〈1〉聴診器〈1〉ペットボトルロケット発射セット〈1〉堆積岩標本〈1〉人体骨格模型〈4〉フィールドスコープ〈2〉三脚〈2〉

(3) 「理科教育センターだより」「天文情報」の発行

(4) 各種団体の活動支援

- ①長水中学校理科教科会、夏季研修講師
- ②長水小学校理科担当者会、施設貸与
- ③理研長水支部「星を見る会」施設貸与及び講師
(早川 和仁)

～教育研究委員会の授業公開から～

道徳教育研究委員会 東部中学校2年 公開授業から

道徳教育研究委員会では、「自己を見つめ、他者と関わり合いながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」をテーマに実践研究に取り組んできました。

【授業者の自己課題】

ねらいとする道徳的価値に迫るための「問い返し発問」とはどのようなものか

<2年「カーテンの向こう」の授業から>

授業者は、「問い返し発問」を意識的に活用することで、生徒が自己の考えを見つめ直し、ねらいとする道徳的価値に向けて自己の考えを深めることができる授業を目指しました。

【単元・授業の構想にあたって】

- ・教材研究において、生徒が自らの考えを深められるような「問い返し発問」を考える。
- ・「学年道徳ローテーション」を活用し、「問い返し発問」の吟味を行う。

念願だった外の景色を見ようと「私」がカーテンを開けると、その向こうはレンガの壁だった。その時の「私」の心情について考える活動の中、全体追究の場面で以下のように授業者と生徒のやり取りが行われました。

A生：ヤコブが死んでほしいと思っていた自分が許せない。

T1：どうして？

A生：苦しいのにみんなを楽しませようとしてくれた優しさとすごさを感じたから。

T2：Aさんだったらこの後どうする？

A生：ヤコブのように話す（嘘をつく）かな。

T3：どうして？

A生：みんなが死を待つだけになってしまうから。ヤコブに対する申し訳なさもある。

A生は、授業者に考えの根拠を問われた（T1）ことにより、ヤコブの行為に対する自身の気付きを探りました。その上で発問（T2）によって、A生は自分自身の気付きに基づいた判断を語りました。授業者は生徒一人一人へ声をかけ「なぜ？」「どうということ？」と問いかけていくことで、生徒が自己の考えをより明らかにできるようにしたり、生徒同士の対話を生み出すことができたりしていきました。

◇参観者の感想から

生徒とのやり取りで考えが深まっていくのがよかった。何も書けなかった生徒も、やり取りを聞くことで書き始める姿があった。問い返しについて参考になることが多かった。

（秋山 拓也）

国語科研究委員会 川中島中学校2年 公開授業から

国語科研究委員会では、「粘り強い自己追究を通して、『できた』『わかった』『やってみよう』がつながる国語の授業」をテーマに実践研究に取り組んできました。

【授業者の自己課題】

自分で決めた学びの方法で、粘り強い自己追究ができる生徒の姿を育む授業のあり方

<2年「絵画の魅力を伝えよう」の授業から>

授業者は、生徒が題材や教具を自ら選択したり、学習進度を自ら調整したりして課題を追究し、自分の力で「できる」という実感が得られるように、本単元を設定しました。

【単元・授業の構想にあたって】

- ・生徒が選んだ絵画について、その魅力が読み手に伝わるように鑑賞文を書く活動を位置付ける。
- ・使用する教具、学習活動の順序や時間など、生徒自身が学習の進め方を選択できる機会をつくる。

前時に、魅力を感じる絵画を選んだ生徒たちは、「絵画の魅力が伝わる鑑賞文はどのようにして書いたらよieldろうか」という学習問題について、教師が作成したモデルの鑑賞文と、その鑑賞文を作成する上で情報を観点ごとに整理した表を見比べ、学習の見通しをもちます。

A生は、自分が選んだ絵画と表を見比べ、絵画の魅力として「自然の風景」「季節が夏のように」「なつかしく思う」という言葉を、タブレット上の表に挙げます。その後、表に示されている「構図・配置」「印象」「色彩」の観点から絵画を鑑賞すると、「橋の下の川」「中央に描かれている家」に注目し、「川の流れる音が聞こえてくる」「全体的に明るい」などの説明を加えました。

鑑賞文の下書きを作成する際には、表に挙げた説明やモデル文の表現、オクリンクプラスに提出された友の下書きを参考にしながら、「祖父母の家に見えてなつかしさを感じる」「『ジャー』という音が聞こえてくるような気がする」「昔、川で遊んだ記憶がよみがえってくる」など、より具体的な説明を加えていきました。

個の課題に応じて教具や進め方を選択できること、友の考えや表現の仕方を共有できる環境があることが、粘り強く自己追究する姿につながっていました。

◇参観者の感想から

生徒は、絵画、表、モデル文を見比べながら、観点に沿って絵画を分析し、絵画の魅力を表現する言葉を整理していました。また、タブレットと紙の両方でワークシートが準備されており、やりやすい方法を選んで粘り強く取り組んでいました。鑑賞文をよりよくするためのきっかけがあると、協働的な学びにもつながっていくと感じました。

（小林 由起子）



【観点ごとに情報を整理するA生】

社会科学研究委員会
柳町中学校2年 公開授業から

社会科学研究委員会では、「社会とのつながりを感じ、見通しをもちながら、自ら関わっていく児童生徒の育成」をテーマに実践研究に取り組んできました。

委員同士で素材研究を丁寧に行い、同一題材についての教材観を深め、めざす子どもの姿を明確にした上で授業を行うとともに、授業後の研究会で成果と課題を話し合い、新たに見えた改善点を次の委員の授業に生かしながら授業実践を重ねました。

【共通して設定した単元を貫く学習問題】

北陸新幹線や、リニア等の交通網が広がることは、中部地方の人々にとって本当に良かったのか。

<2年 地理的分野「中部地方」の授業から>

授業者は、単元を貫く問いについて、友だちの意見を聞いたり、班で答えを考えたりして、北陸新幹線やリニア中央新幹線について、公共の福祉の観点でメリット・デメリットを比較して、根拠をもって自分の考えを説明できることをねらいました。

【前の研究委員の授業実践をもとにした手だて】

「自然」「人口」「産業」の観点のメリットとデメリットをそれぞれ班でまとめ、全体で共有した。

導入で教師は、前時に個々にまとめた学習問題に対する自分の考えを発表するよう促します。A生は、自然破壊を理由に「よくなかった」と発言しますが、B生は「産業が伸びるところもあるのでどちらとも言えない」と発言します。ここからお互いの考えを共有し、「自然」「人口」「産業」の観点や、その中の対立の軸を全体確認したうえで、学習問題の解を探っていきます。

その後、班毎に対話をしながら観点を整理しながらホワイトボードにそれぞれのメリット・デメリットをまとめていきました。自然の面については多くの子どもたちが、自然破壊の影響が大きく、どちらかと言えばマイナスという意見が多く見られました。ここで教師は追加資料を提示します。すると、「自然の観点からは良くないが、産業や人口で考えると…」と自分たちの意見を改めて考え直す場面が見られました。メリット・デメリットの比較だけでなく、自然、人口、産業と公共の福祉とを総合して考えて行く子どもたちの姿が見られました。

◇参観者の感想から

子ども達は、たくさんの資料から根拠をもって情報を的確にまとめていた。私は国語科を担当しているが、今日の社会科の授業を見せてもらって、資料から根拠をもって自分の授業でも生かせそうです。

(両角 宏和)

令和6年度教育研究を振り返って

「しなのきプランII(令和6年度版)」と長野市の教育課題を踏まえ、共通テーマを「非認知能力を育む」とし、【子どもを観る・子どもの声を聴く・子どもと対話する】ことなどを通して、子どもが主体的に学び、他者と協働しながら問題を解決していく力を育む授業を目指し、ICTの活用を図りながら実践的な研究を推進してきました。今年度も長野上水内教育会との共同研究を継続し、研究成果を共有するとともに、成果の普及と活用の強化をはかっています。

長野市教育センターの授業公開は、各学校の協力を得て小学校、中学校合わせて14の授業が公開され、のべ310名の先生方に参観いただきました。認知能力と非認知能力を一体的に育むことを目指し、温かい雰囲気のある教室において、授業者のアイデアをいかし、研究委員同士で練り上げた授業が展開されました。

先生同士が授業を見合い、議論を深めることで、自分の授業改善につなげていこうとする思いを強く感じました。先生方の自ら学ぶ姿勢が子どもたちの自学自習の資質能力の伸張につながっていくのだと感じました。

算数と中学校外国語の授業公開は、研修講座に位置付け連携して実施しました。また、研究委員による実践発表なども多くの研修講座で行われました。

今後、これらの授業公開を含めた研究委員それぞれの研究成果を「長野市の教育」にまとめ、ポータルサイトに掲載します。さらに、授業公開に参加できなかった先生方のために、道徳、国語、理科の授業の様子を教員研修用ビデオ教材としてまとめ、ポータルサイトに掲載する予定です。現在21本のビデオ教材が掲載されています。研究のまとめや教員研修用ビデオが、各校の校内研修で活用されることを期待しております。

【研究委員のアンケートから】

- ・数値で見ることのできない生徒の「やってみよう」「挑戦してみよう」「うまくなりたい」という思いを持つことができるような展開や場を考えて取り組んだ。
- ・校内の先生方と授業構想について語り合う中で、様々な考えに触れて視野が広がった。また、子どもの思いや願いに目を向けることの大切さを改めて学ぶことができた。

来年度も、「しなのきプランII」の方向性を大事にしなが、長野上水内教育会との共同研究をより一層進めてまいります。

(宮澤 剛彦)

教育相談室から 今年度のまとめにかえて

①～あらためて自立活動～

本年度の就学相談の判断は、2月14日の第16回教育支援委員会をもって終了となりました。保護者の皆さま、関係の先生方、医療、福祉の方々には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

さて、本年度の就学相談申込件数は566件で、前年度に比べて8件増えております。判断として圧倒的に多いのが自閉症・情緒障害学級入級です。この自閉症・情緒障害学級の支援の中核が自立活動です。自立活動は一口に言えば、学習しやすくなる、生活しやすくなるための学びです。

ご存知のように自立活動はそれまでの養護・訓練の発展として、平成21年に公示されました。今から15年ほど前になります。それまでの養護・訓練に比べ、自立活動には本人の主体性が明確に位置づけられたと思います。

一つ一つの就学相談は多くの場合、教育支援委員会の審議を経た「判断報告書」というかたちで一応終息するわけですが、この判断報告書には「改善への意欲」という項目があります。自立活動に限りませんが、「こうになりたい、こうしたい」という本人の主体性がなければ「学び」は成立しにくいと思います。その意味で、「改善への意欲」は本人の主体性が位置づけられている判断報告書の肝になっている部分だと思いますし、注目してほしいところでもあります。

では主体性が発揮できるようになるためには何が必要なのでしょう。一つはその子の興味関心や得意を大切に具体的な支援に取り入れていくことだと思います。苦手を改善克服しようとするのではなく、その子の興味関心や得意に軸足を置いて伸ばすことが、必然的に苦手な部分の発達を促すことになるのだと思います。その子の得意をテコとした言わば面としての発達です。そうした営みの中にこそ調和のとれた発達が生まれるのではないのでしょうか。同時に、その子の興味関心や得意に軸足を置くということは、その子独自のオリジナルな支援方法が必要になると思いますし、それを考えることはその子をさらに深く見つめることにもなるのではないのでしょうか。

もう一つは、自分の得意や苦手、言い換えれば自分の特性を自覚すること、つまり自己理解だと思います。年齢とともに深まっていくこの自己理解も、主体性の発揮を支える大切な要素になると思います。

一方、通常の学級のお子さんにも必要に応じて自立活動を取り入れることができるようになっておりますので、積極的に活用を考えて頂きたいと思います。勿論、例えば国語の輪読（友だちの読みを聞き取りながら順番を待ち自分の読みに備える）のように、授業の中でもいろいろな場面で自立活動の要素が入った活動を自然に行っているわけです。通常の学級でも配慮の必要なお子さんがたくさんいます。自立活動をもっと身近な学習として、教育全体に広げていってよいのではないのでしょうか。

②～境界知能・グレーゾーン～

②は課題です。年々増えているのが、知的発達のレベルが境界域という、所謂グレーゾーンのお子さんです。特に発達障害もなく、主な困り感が学習不振というケースです。このようなケースの判断として一番近いところの選択肢は知的障害学級です。しかし総合的判断とは言え、知的障害学級入級の基準には、知的発達の遅れ、日常生活の一部援助の必要性、社会適応の困難さがあります。上記のお子さんのケースがそれに該当するかといえばなかなか難しいと言わざるを得ません。

そうした状況を踏まえ、そのようなお子さんには、例えば〔望ましい教育的措置：通常の学級で配慮した指導を受ける〕〔当面とるべき現実的措置：特別支援学級（知的障害）で指導を受ける〕というような2段階の判断が出されることがありますが、それとても極めて限定的にならざるを得ません。

教育相談室・教育支援委員会としても刻々と変化する状況に配慮し、可能な限りベターと思われる対応を日々検討し、困り感のあるお子さんが少しでも前に進めるようこれからも取り組んでいく所存です。

(大井 透)

編集後記

2月17日に令和6年度第2回教育センター運営委員会を開催しました。令和6年度事業の進捗状況と新年度の計画等についてご説明し、委員の皆様方から貴重なご意見、要望等をいただきました。引き続き、利用される皆様に寄り添った教育センターを目指してまいります

本号が今年度の最終号になります、新年度は6月から4回の発行を予定しております。